

第5回東北学生アルティメット大会レポート

2014年5月25日（日曜日）、仙台大学サッカー場で行われました。今大会も、株式会社クラブジュニア様、株式会社ディスクヴィレッジ様から協賛をいただきました。誠にありがとうございます。天気は前日までは晴れ予報でしたが、当日は曇り。雨が降るのではないかと心配しましたが、一日雨は降らず大会を行うことができました。昨年は、怪我人が出て救急病院がどこなのか調べておかなかった反省をいかして準備をしていましたが、大きな怪我もなく無事に終わりました。怪我につながってしまう前にメディカルを利用し、チームごとにアップやストレッチをしっかりと行い、試合でのパフォーマンス向上の意識が高まっていることが、怪我なく無事に終わった理由の一つではないかと感じました。

参加チームは6大学11チーム、178人が参加し、そのうち78人が新入生という大会でした。特にエントリー人数が多かったのは岩手大学で、3チーム総勢42人でのエントリーでした。新歓PVの効果もあってか、新入生のエントリー数も一番でした。

開会式では、今年度から宮城県フライングディスク協会事務局長に就任した庄司友輔さんの初仕事、事務局長挨拶があり会場を沸かせてくださいました。

今大会の試合は、予選リーグ25分、本戦リーグ30分で行いました。各チーム4試合か5試合になるようにリーグ戦にしました。やはり、会津大学の強さは他大学よりもとびぬけていましたが、上位リーグ山形大学庄内 KOZOH と会津大学 Aero Snap は1点を争う接戦でとても面白いゲームだったと思いました。今大会特に目立っていたのは、仙台大学と秋田大学であったのではないかと感じました。仙台大学は、新ユニフォームだけでなく走力を活かしたプレーでも目立っていて、これからの成長が楽しみだと感じました。秋田大学は一番に会場入りし、一番早くディスクを投げ始め、試合中もどこよりもコートを走り回っていました。試合に向けての意識が高く、どのチームよりもアルティメットが好きなのだということがよく伝わってきました。

順位は、

- 第1位 会津大学 Dual Boot
- 第2位 山形大学庄内 KOZOH
- 第3位 会津大学 Aero Snap
- 第4位 秋田大学 BLITZ
- 第5位 岩手大学 RASIS
- 第6位 仙台大学 Energista
- 第7位 岩手大学 YKK A ぴー
- 第8位 東北学院大学 Unchain
- 第9位 東北学院大学 U.C Rookies
- 第10位 山形大学さくらんぼーず
- 第11位 岩手大学 F&Co.

となりました。

チーム賞として、第1位から第3位のチームには株式会社ディスクヴィレッジ様から協賛していただいたお米が贈呈されました。それに加え1位チームにはサンシェード、2位チームには FIVE ULTIMATE Black Coach Bag、3位チームには得点板も贈呈されました。

また、第五回大会記念特別賞として第5位の岩手大学 RASIS に「ご」にちなんだ賞品、「午後の紅茶」55缶が贈呈されました。新入生が最も多くエントリーしたチームに新歓頑張ったで賞を用意し、19名もの新入生が参加した岩手大学にウルタスター4枚と湘南ビーチアルティメット大会のボトルが贈呈されました。

個人賞では、最優秀選手賞の男女それぞれの方に株式会社クラブジュニア様から協賛していただいた昇華パンツが贈呈されました。敢闘賞は男女それぞれの方に折りたたみ椅子を、新人賞は男女それぞれの方にディスクが贈呈されました。新人賞を受賞された2人はこれからの活躍が楽しみです。シュート賞には Boon×CLUBJr collaboration shorts 8 と New GAIA ULTIMATE ソックス、ゴール賞には CLUB Ultimate スウェットパンツ、ディフェンス賞には CLUB Ultimate ロングスリーブシャツと New GAIA ULTIMATE ソックスが贈呈されました。また、受賞者が複数名になったころでは、株式会社クラブジュニア様のご厚意で、ソックスやミッキーTシャツなどの賞品を追加の協賛品として用意して頂き、運営側としても大変助かりましたし、受賞者にとっても心に残る表彰となったと思います。

閉会式では成績発表の他に、予定になかったガイアバッグじゃんけん大会を株式会社クラブジュニアの吉田社長に提案して頂きました。ガイアバック含め、多数の協賛品をご用意頂き心より感謝申し上げます。

初めて大会に参加する新入生も個人賞を受賞できるように新人賞を用意しました。しかし、全選手対象の個人賞受賞者の中に新入生が選ばれていることに驚きました。今後の新入生の成長が楽しみに思うと同時に、自分たち上級生も負けていけないなと感じました。

試合会場のサブグラウンドでは障害者フライングディスク競技の体験会も宮城県フライングディスク協会事業普及部長の吉崎嘉一さんの発案で行われました。車いすに乗ってのアキュラシーとディスタンスは下半身の動きが使えないので難しいと感じましたし、それは新たな発見でもあり、障害者競技について考えるようになりました。もっと障害をもった方と近い状況で体験できるように足を固定するなどして工夫していく必要があったと思いました。今回はあまり体験した学生が少なかったため、より多くの学生に障害者フライングディスク競技を体験してもらい、障害について考える出発点にしてもらいたいと思いました。

今大会が例年と大きく違う点は、「宮城の学生」で運営を行ったことです。大会運営に携わることが初めての学生がほとんどで、宮城県フライングディスク協会の伊藤佐江子さんと佐藤規恵さんに助けていただきながらの準備でした。

学生が運営を行ったことで、今年新たな企画を二つ実行することができました。

一つ目は、新入生の腕と胸にテープを貼り、新入生と上級生の見分けがつくようにしました。この目的は、試合中などにチーム関係なしに上級生が新入生に教え、新入生が上級生に聞くといった交流ができればと思い企画しました。テープの効果で新入生同士のマッチアップにしたりすることが見られましたが、教える、聞くといった場面は少なかったように感じました。

二つ目は、新入生のためのイベント試合です。この目的は、新入生に試合を体験してもらうことはもちろんのこと、新入生同士の交流の場を作りたいと思い企画しました。このイベント試合はターンオーバーだらけでゲームにならないのではないかと不安もありましたが、新入生のレベルが想像以上に高く面白いゲームになり、プレーしている新入生もコートサイドで応援している上級生も楽しめたと思います。

今回大会を運営する側になって、学生全体で直していくべきだと感じたことがあります。それは、「期限を守る」ということです。私は、東北の学生がこれほど期限にルーズであることにとても驚きました。また、エントリーシートの見易さ、メールなど運営側とのやりとりについてももっと改善が必要だと感じました。

4月13日の第一回ミーティングからの45日間はととてもとてもあっという間でしたが、内容が濃く忙しい日々でもありました。特に、メンバーエントリーが締め切られてからが忙しく感じました。チームでは代表として試合に出つづけチームを引っ張り、実行委員長として大会の運営をするのはとても大変でした。しかし、閉会式でいただいた拍手や、閉会式後にかけてもらった「楽しかった」「ありがとう」「お疲れ様」の言葉は、それまで感じていた大変さや疲れを忘れさせました。2014年東北アルティメットのシーズン最初の大会を実行委員長という立場で携わることができたことをうれしく思います。

最後になりましたが、多くの協賛品をいただいた株式会社クラブジュニア様、株式会社ディスクヴィレッジ様、メディカルに入っていたいただいた杜のすずめの整骨院 院長 弓田龍輔様、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。

そして、頼りのない実行委員長を支えてくださった東北学生大会実行委員のみなさん、宮城県フライングディスク協会のみなさん、大会当日の設営と撤収を手伝ってくれた仙台大学 **Energista**、東北学院大学 **Unchain**、東北大学 **Albatross** をはじめとする学生のみなさん、第5回東北学生大会運営にご協力いただきまして心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

東北学院大学 **Unchain** 東北学生アルティメット大会実行委員長 大津峻太郎